

自治体の
介護予防担当者の
皆さまへ

運営支援音声対話AIアプリ

「リエイブルメント型短期集中予防サービス」とシェルハナ

導入のご提案



導入のポイント

1 自分らしい暮らしの再獲得を地域で支える

要介護化・重度化の予防と介護給付費の抑制を目指し、リエイブルメント型短期集中予防サービスと運営支援音声対話AIアプリ「シェルハナ」の同時導入をご提案します。

2 本人が望む生活を出発点に

「自分で買い物に行きたい」「もう一度、趣味を楽しみたい」。本人の希望を生活目標にします。
リエイブルメントは、本人の能力と生活・環境の工夫で暮らしを再び築く支援です。
対話と実践で、自分の状態を知り、取り組みを選び、続ける「セルフマネジメント」を育みます。

3 地域の介護予防施策で目指す成果

住民の暮らしの改善　家事や外出など、大切な活動と参加の回復を支えます。
要介護化と重度化の予防　生活機能の低下に早期に働きかけます。
介護給付費の抑制　生活機能の維持・改善で、中長期的な給付費の伸びの抑制を目指します。

4 導入の鍵となる動機づけ面談を独自機能で支援（特許出願中）

本人の意欲と行動を引き出す「動機づけ面談」には、生活背景や価値観を捉える専門性と経験が必要です。
「シェルハナ」は、日々の対話から実感や困りごとを整理し、次の面談で確かめたい事項を専門職に提示します。



楓ウェルビーイングデザイン株式会社

JMAR
JMA Research Institute Inc
株式会社日本能率協会総合研究所

要介護支援を取り巻く状況

「シェルハナ」との同時導入が有効です

リエイブルメント型と運営支援音声対話AIアプリ「シェルハナ」を同時導入する事で、要介護支援を取り巻く状況の構造的課題をサポートし、今まで難しかった要介護支援者の方々への動機づけへと導きます。

一般的な短期集中通所Cとリエイブルメント型のちがい

	教室型（集団型）	リエイブルメント型（個別型）
名称例	●○○教室	●リエイブルメントプログラム
実施する内容	●筋力トレーニング、マシンを使ったパワーリハビリが中心 ●栄養、口腔等の講座	●**個別の面談（コーチング）が中心** ●セルフマネジメント支援を軸に、ICFの視点を踏まえた「心身機能（運動・口腔・栄養）」「活動」「参加」の複合的アプローチ ●SC等の支援による社会参加
専門職	●理学療法士、作業療法士、運動指導士、管理栄養士、歯科衛生士など	●理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士など
利用開始のタイミング	●ターム制（年２～４回程度） ●ターム毎の教室開始のタイミングで利用	●随時利用
対象者選定	●保健師等による対象者の抽出、振り分け ●ハイリスク者への参加勧奨 ※ハイリスク高齢者～要支援2まで、利用者の状態像の幅が大きい	●新規認定者、事業対象者のうち、総合事業（特に通所サービス）の利用を希望する人は原則全員
特徴	●複数の教室を実施運営し、利用者の状態像に応じたメニューを提供	●**サービス提供時間に運動することは目的ではなく、通所日以外の日の自宅での活動について確認・助言することが目的**
モデル市町村	●多数	●寝屋川市、防府市、豊明市、相模原市ほか

リエイブルメント型の課題を「シェルハナ」がサポートします

リエイブルメント型の構造的な課題に対しても、運営支援音声対話AIアプリ「シェルハナ」を活用することで、介護支援対象者にとって、「してもらう」から「できるようになる」ための動機づけをサポートします。

リエイブルメント型の構造的な課題

専門職は動機づけ面談（20分）に『高度なスキル』を要求される

- 短時間で情報収集と状況把握
- 小さな変化に光をあてて言語化
- 対話しながら課題整理と焦点化
- 正解を与えず「本人が決める」を誘導



成果の多くは『自宅での6日22時間』に左右される

- 翌週の面談まで状況把握が困難
- 行動の成果を客観的に自覚する難しさ
- 自己管理習慣の獲得・維持の難しさ
- 自己効力感低下時の対応が欠如

独自の面談支援機能とシェルハナの紹介

難しい動機づけ面談をシェルハナが支援

楓の風の25年間の実践知を礎に、
楓ウェルビーイングデザイン株式会社が日本能率協会総合研究所と協働し、
PKSHA TechnologyのAI技術で開発する音声対話AIアプリです。

※動機づけ面談を支援する独自機能は特許出願中です。



本人の言葉から面談の焦点を整理する独自機能

利用者が日々AIと対話、経過や気持ちを整理し、専門職へ次回面談の確認事項や話題の候補を提示します。

対話AIの聴取項目

「目標」「行動計画」は策定済

目標 1.・・・
2.・・・
計画 1.・・・
2.・・・

1.日々の行動計画の実施状況
2.行動にとり組んで感じた心情
3.生活課題実行などでの気づき
4.語っていない過去の話や価値観

AI 本日のご自宅でのとり組みのご様子はいかがですか？
利用者 先日教わった運動を続けてますが、どれも大変なことばかりです
AI その大変さは具体的にどのあたりに感じるのでしょうか？
利用者 自宅で運動しても、張り合いがなく、効果が出る気がしないの
AI 自宅の運動に限界を感じてるのですね。効果は全くないですか？
利用者 近所の集会場まで歩ける日が来るのかと思うと気が重くなるわ

AI=AI 利用者=利用者

対話記録

抽出・要約AI

聴取情報の事業所への提供

動機づけ面接に活用できる情報

1. 6日間の行動計画の実施状況の要約
▶実施有無・量などの専門職面談の中心的情報
2. とり組みで感じた手応えや気づき（要約）
▶「苦労」「変調」「継続見通し」など計画再検討情報
3. 目標・行動計画の進展や変更に有益な情報
▶「生活歴」「価値観」などその人らしさを知る情報

事前の情報で短い面談時間を効率化する

セルフマネジメント計画更新と動機づけの質を含める

情報収集から面談と記録までを支える4つの機能

1 **自宅でのAIモニタリング**
スマートフォンで毎日約5分、取り組みや実感を聴き取ります。

2 **セルフマネジメントシートの自動作成**
実施状況や手応え、困りごとを週ごとに整理します。

3 **面談を支援する情報ダッシュボード**
要約・原文と次回の確認事項を面談準備に活用できます。

4 **面談記録の自動生成**
専門職が確認・修正して活用し、作成負担を軽減します。

AIの聴き取りと専門職の専門性を組み合わせる

AIは一方的な助言や叱咤激励、安易な賞賛を控え、本人の言葉を引き出します。
専門職は要約と原文を確認し、判断・目標づくり・動機づけを担います。



買い物の再開に向けた活用例

「商店まで行けたけれど、帰りは荷物が重く、膝が痛んだ」。日々の記録を基に、
専門職が背景を確かめ、再自立に向けた取り組みを考えます。

※活用例は架空、毎日約5分は目安です。開発・検証中で、通所型サービスC向けに2027年春リリース予定。機能は予定を含み、効果等は今後検証します。
製品情報の出典：『シェルハナ 製品紹介資料 新版』(2026年10月26日)。

支援の仕組みと先行事例

リエイブルメント型の支援と導入事例

対象は、要支援1・2・事業対象者のうち、短期集中で改善が見込める方。
通所型・訪問型サービスC等で3か月を目安（必要に応じ最大6か月）に実施し、卒業（再自立）を目指します。

※ICF（国際生活機能分類）の視点で、心身機能・活動・参加・生活環境を捉えます。



目標づくりから終了後の暮らしまで

1. **相談と訪問評価**
   専門職が本人の希望、生活機能、住環境を確認します。
2. **生活目標と実践**
   目標を共有し、自宅や地域での取り組みを考えます。
3. **面談で振り返る**
   実践と実感を確かめ、動機づけを行います。
4. **地域で続ける**
   趣味・交流・役割の場を整え、終了後も暮らしぶりを確認します。

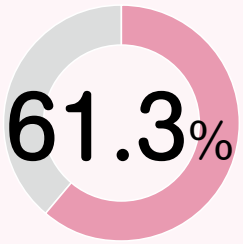
寝屋川市での生活目標の達成事例

82歳の男性が「成田山に参拝したい」と目標を共有。約3か月・全12回の通所支援と自宅での実践を経て、歩行器で参拝を実現しました。※1

※1 防府市におけるリエイブルメント型予防サービス導入による効果の報告値で、シェルハナ導入前の効果です。

山口県防府市から報告された生活と費用の変化

《 生活の再自立 》



2021年1月～2022年9月末
利用者約260人

**専門職の訪問・通所サービスなしで
自分らしく暮らせる状態となった割合**

《 サービス費用 》

約20%削減

**要支援・事業対象者のサービス費用
介護保険給付費全体の削減率ではありません**

リエイブルメント型通所C事業所で検証導入中

現在山口県山口市、防府市、大阪府寝屋川市のリエイブルメント型通所Cを実践中の先進事業所において、運営支援アプリ「シェルハナ」を検証導入中です。「シェルハナ」の導入効果については2027年2月に発表予定です。

出典：日本能率協会総合研究所『リエイブルメント型短期集中予防サービス はじめよう』冊子p.1～4、5～8。
出典：医療経済研究機構 国際長寿センター『元気な自分を取り戻す！ 3カ月間の短期集中予防サービス』（2023年3月31日）p.3。事例は要約。

同時導入のメリット

同時導入で動機づけ面談を支える体制を整える

自治体がシェルハナを導入し、通所型サービスCを実施する事業所へ、
指定の運営支援アプリとして提供します。
モニタリングから面談準備・記録まで、運営全般を支えます。

同時導入で期待できること

動機づけ面談の焦点を捉えやすくする	本人の実感や困りごとを踏まえた対話に活かせます。
専門職の準備と記録作成を支援	要約と記録の自動生成で、対話に時間を使いやすくします。
専門職の学びと支援の共有に活用	事例共有と研修で、活動・参加を捉える視点を学べます。

自治体主導でリエイブルメント型の支援を広げる

自治体と事業所が連携し、研修とアプリを通じ、経験の浅い職員も継続して支援できる体制を目指します。

情報保護を考慮した設計

医療情報の取り扱いに関する指針（3省庁2ガイドライン）に準拠したセキュリティ機能を実装しています。





導入の相談とお問い合わせ

■リエイブルメント型介護予防サービスとシェルハナの導入のご相談・お問い合わせは

株式会社日本能率協会総合研究所

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22　日本能率協会ビル5階
社会イノベーション研究事業本部
TEL. 03-3434-6282（大代表）　FAX. 03-3578-7547

▶お問い合わせ　https : //www.jmar.co.jp/contact/

▶実践動画と参考資料　https : //www.jmar.co.jp/job/public/llg.html

■シェルハナに関するお問い合わせは

楓ウェルビーイングデザイン株式会社

〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町3-35　LIST EAST BLD.4階

▶お問い合わせ　https : //kaede-wellbeing.com/

共同開発

JMAR JMA Research Institute Inc 株式会社日本能率協会総合研究所

Kaede WELLBEING DESIGN AI 楓ウェルビーイングデザイン株式会社

PKSHA TECHNOLOGY